

品目：きく（小菊）

環境こだわり農産物の基準（5割以下の基準）

化学合成農薬（延べ使用成分数） 16成分以下

化学肥料（窒素分量） 10kg/10a以下

技術体系例 きく（小菊）

生育ステージ	作付前		定植	生育期間中																						
	作付体	定植時		全般					生育初期					生育中期					生育後期							
防除時期	ほ場ローテーション	土壌消毒	殺虫剤	マルチ	捕殺	葉かき	病害株の引き抜き	室内循環扇	黄色灯	黄色・青色粘着版	防虫ネット	殺虫剤	殺虫剤	殺虫剤	殺菌剤	殺菌剤	殺虫剤	殺虫剤	殺虫剤	殺虫剤	殺菌剤	殺菌剤	殺虫剤	殺虫剤	殺菌剤	
防除方法・使用資材・薬剤名等																										
白さび病						★									●							●	●			●
褐斑病、黒斑病															●											
灰色かび病						★																				
立枯れ病	★						★																			
アブラムシ類			●						★	★	●	●													●	
アザミウマ類			●	★					★	★	●															
ミカンキイロアザミウマ				★					★	★					●	●		●								
ヨトウムシ類			●		★				★	★		●			●	●										
オオタバコガ					★				★	★					●	●									●	
マメハモグリバエ			●			★			★	★									●							
ネグサレセンチュウ	★																									
ハダニ類																	●	●								
(例)使用農薬等												スタークル顆粒水溶剤	ハチハチ乳剤	ノーモルト乳剤	ジマンダイセンフロアブル	ダコニール 1000	アフアーム乳剤	コテツフロアブル	ダニトロンフロアブル	カスケード乳剤	ジマンダイセンフロアブル	ラリー乳剤	スタークル顆粒水溶剤	ライトニング	アミスター20フロアブル	
化学合成農薬成分数			1									1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法
 農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。
 ※印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。
 ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

病気 白さび病



白さび病の病斑

発生しやすい時期

6月上旬頃～7月上旬頃

原因（発生要因）

- ・初夏に胞子が風で飛んでうつります。
- ・17℃前後で、湿気が多いときに多発します。

対策（減農薬技術）

- ・病気を持っていない苗を使います。
- ・病気にかかった葉は早めに取りのぞきます。
- ・病気にかかりやすくなるので、肥料をやりすぎないようにします。

病気 **褐斑病** (かっぱんびょう)



褐斑病の病斑

発生しやすい時期

6月頃、9月頃～10月頃

原因（発生要因）

- ・ カビによる病気で、風や雨により飛んでうつります。
- ・ 20～28℃で、暑くて湿気が多いときに広がります。

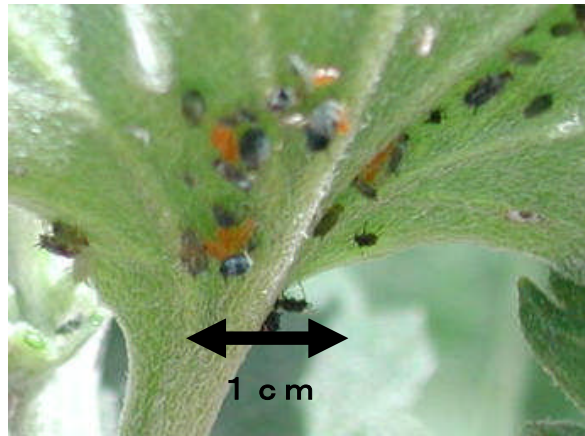
対策（減農薬技術）

- ・ 病気を持っていない苗を使います。
- ・ 病気にかかった葉は早めに取りのぞきます。
- ・ 病気にかかりやすくなるので、肥料をやりすぎないようにします。
- ・ マルチや敷きわらで、泥はねを防ぎます。

害虫 アブラムシ類



キクヒメヒゲナガアブラムシ



ワタアブラムシ

発生しやすい時期

4月頃～10月頃

原因（発生要因）

- ・ キクヒメヒゲナガアブラムシは、芽の部分で冬をすごします。春になって新芽が伸びてくると、柔らかい芽や若葉の部分で増えます。
- ・ ワタアブラムシは、ムクゲなどに産みつけられた卵で冬を越すものと、ナズナや施設野菜などのうえで冬を越すものがあります。きくには、これらの植物から飛んできて増えます。

対策（減農薬技術）

- ・ アブラムシのすみかをなくすために、栽培ほ場のまわりに生えている雑草を除草します。
- ・ 光るものが嫌いなので、銀色のテープなどをほ場に張ります。
- ・ シルバーマルチを張ります。
- ・ 定植するときに粒剤を使うと、農薬の散布回数を減らすことができます。